

ふるさと講座・自然系 + 歴史系

オジロワシ・オオワシ観察会と 古代竪穴住居跡をめぐる！

- 日 時 平成22年3月14日（日）
午前9時～12時
- 場 所 風蓮湖・走古丹方面
- 講 師 自然系－別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏
歴史系－別海町郷土資料館 主任 石渡 一人
- 集 合 郷土資料館へ9時までに集合
観察場所への移動は、当館で送迎しますが、
自家用車での移動もできます。
- 定 員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。）
- 持 物 双眼鏡・図鑑（当館で若干貸出しします。）長靴を着用ください。



オオワシ（成鳥）

観察会の見どころを紹介します！

オオワシ・オジロワシ（一部北海道でも繁殖）は冬季になると北の地方から渡ってきます。翼を広げると2mにもなります。オオワシは、オレンジ色のくちばしと黒と白の羽の色がとても鮮やかで、飛んでいる姿は、まさに冬の王者と呼ぶにふさわしい姿です。この時期は北へ飛び立つ準備に入りますが、同時にタンチョウが鶴居・阿寒などの給餌場から繁殖などのために戻ってきます。春は鳥たちの移動などで一番にぎやかな季節です。色々な鳥が観察出来ると思います。

さらに、風蓮湖の周辺は古代から人々の営みがあったようです。その証拠として竪穴住居の跡が無数に残っています。一辺10mの大型のものなど、残雪によりその姿も明確に観察することができますので、別海町の自然と歴史を満喫できることと思います。ぜひ、ご参加ください。



タンチョウ



ハクチョウ



オオワシ（幼鳥）

近世の別海を探る 「西別川河口から南、風連湖内」～その1～

先月号までは、「ベツカイ・ニシベツ」という別海町発祥の地と呼ばれる現在の本別海の様子を紹介しました。今月号からは、海岸線を中心に近世の様子を紹介したいと思います。

ルエサルサン

本別海を走古丹方面に3キロほど進んだところで、秋には鮭釣のサオが数多く並ぶ場所です。現在も「ルツチャル」と地名が残ります。近世文献史料の標記は、「ルチャル」「ルエサルサン」「ルチャロ」「ルエサンサル」「ルエサンルン」「ルチャル」「ルエサニチャロ」などがあります。

○地名の由来

☆〔ルエサンルン〕

- ・「アツウシヘツより水来り出るが故に号るとかや」

『午手控』松浦武四郎 安政5年(1858)

☆〔ルチャル〕

- ・「道の口」

『蝦夷方言 藻汐草[写]根室国境区域[根室地名解]』加賀伝蔵 明治2年(1869)

☆〔ルエサニチャロ〕

- ・「坂口」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○地勢・建物など

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「ルエサルサン 是よりニシベツへ十八丁。皆砂浜。楸の木立有なり。此処うしろは風蓮前は大海原二而、東ニクナシリ島を見また少し北によりノツケ岬南に当、

子モロ、ノツシヤフ岬見え風景いわんかたなし」『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)

・「陸路拾八町忽字ルチャロ……」(ニシベツから)『堀村垣回浦上申記』堀織部正・村垣与三郎 安政元年(1854)

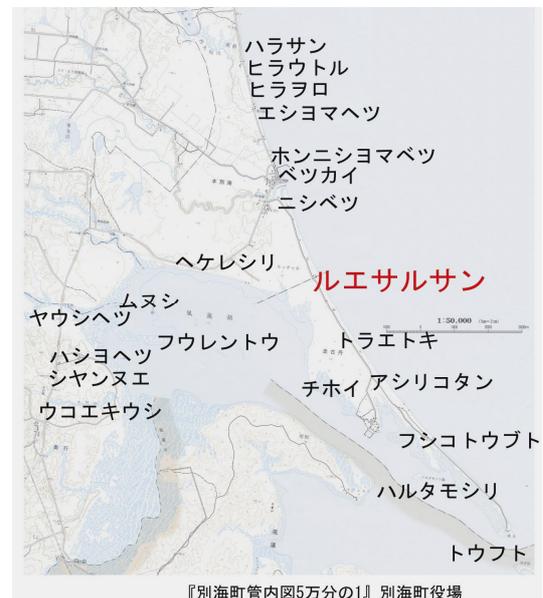
幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「ルエサルサン(漁場)」『東西蝦夷山川地理取調紀行知床日誌』松浦武四郎 安政5年(1858)

・「アツケシ持夏漁出張 ルチャロ 茅蔵 壱棟 茅蔵 壱棟」

『万延元年 仙台様江 御引渡諸書付綴込 式冊之内 子モロ会処控写』加賀伝蔵 万延元年(1860)

幕末は、出張漁場が設けられましたが、古くは地名の由来にあるように根室や別海・野付に向かう入口の役割を担っていたようです。



『別海町管内図5万分の1』別海町役場



別海町郷土資料館だより No.128

発行日 平成22年3月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

いよいよ年度末、私は、大晦日から正月を迎えるより、この3月から4月になる新年度の方が、1年の終わりが感じられます。春は別れと出会いの季節で、気持ちも新たにと毎年ながら思うのは私だけでしょうか？ (K.I)